

話題 4 4 自然を大切に作る街づくりを

～波は地球を洗っている～

定年を迎えた。青春時代を過ごした名護の街に職場を移した。いにしえの名護湾を包み込んだあの長い砂浜と若者に夢を見させた夕陽の沈む水平線は、いまだに脳裏に強く焼き付き、取り戻すことのできない過去を偲ばせている。

埋め立てられた海岸線と名護のシャッター街。この街をよみがえさせるにはどうすればいいのだろうか。

気が付くと宇茂佐の村には砂浜が残っていた。朝夕と潮風に吹かれての散歩には、絶好の癒しの風景がある。潮の満ち干。穏やかな波、荒れた波。日により、時により、刻々と変化する波が語りかけていた。よくよく注意してみると、ゴシゴシと「地球を洗っている」のです。欲望に渦巻く人間社会の足跡を消すかのように、ゴシゴシ・・・と。

波の気持ちを汲み、散歩がてらに砂浜に無造作に捨てられた紙屑、ペットボトル、空き缶などを拾いつつ歩いた。約1週間で大きなチリ袋がいっぱいになる。それでも、きれいな砂浜が演出できそうな気配がした。

残念ながら、大雨の後の砂浜は悲惨な光景に様変わりしていた。散乱するペットボトル、空き缶の山、得体のしれない粗大ごみ。そうです。村の中を流れる用水路から、濁流に乗ったこれらのものが海に流れ込んでいたのです。波が怒り、それらを砂浜に押し戻していたのです。

砂浜をきれいに保つには、個々人のマナーが大切です。何気なく投げ捨てる、その一塊のチリが、用水路から海へと流れ込むのです。

名護市は、非常勤でも海岸線をきれいに保つための職員を配置してはどうでしょうか。安全に海水浴の楽しめる場所を設置してみてもは。地元のビール会社は、海浜ビヤガーデンを開いてみる。穏やかな名護湾に遊覧船を浮かべてみる。

景気の波に左右されない、永続する街づくりには海岸線を大切にすることにあるのではないかと考える。陽の沈む名護湾、陽が昇る辺野古の

海。自然と調和した街づくりの理念のもとに。

個々人の、民族の、国家間の欲望に渦巻く世相の中で、地球を血に染めてはいけないと、波はゴシゴシと今日も「地球を洗って」いるようです。

寄稿



石川 清司

海浜生かして
名護の振興を

定年を迎えた。青春時代を過ごした名護の街に職場を移した。いにしえの名護灣を包み込んだあの長い砂浜と若者に夢を見させた夕日の沈む水平線は、いまだに脳裏に強く焼き付き、取り戻すことのできない過去をしのばせている。

埋め立てられた海岸線と名護のシャッター街。この街をよみがえらせるにはどうすればいいのだろうか。

気が付くと宇茂佐の村には砂浜が残っていた。朝夕と潮風に吹かれての散歩には、絶好の癒やしの風景がある。潮の満ち引き。穏やかな波、荒れた波。日により、時により、刻々と変化する波が語りかけていた。よくよく注意してみると、「ゴシ」と「地球を洗っている」

の足跡を消すかのように、「ゴシ」ゴシと。波の気持ちをくみ、散歩がてらに砂浜に無造作に捨てられた紙くず、ペットボトル、空き缶などを拾いつつ歩いた。約1週間で大きなちり袋がいっぱいになる。それでも、きれいな砂浜が演出できそうな気配がした。残念ながら、大雨の後の砂浜

々人のマナーが大切です。何げなく投げ捨てる、その一塊のちりが、用水路から海へと流れ込むのです。

名護市は、非常勤でも海岸線をきれいに保つための職員を配置してはどうでしょうか。安全に海水浴の楽しめる場所を設置してみてもいい。地元のホテル会社は、海浜ビアガーデンを開いてみては。穏やかな名護灣に遊覧船を浮かべてみては。

景気の波に左右されない、永続する街づくりは海岸線を大切にするところにあるのではないかと考える。日の沈む名護灣、日が昇る辺野古の海。自然と調和した街づくりの理念のもとに。

個々人の、民族の、国家間の欲望に渦巻く世相の中で、地球を血に染めてはいけないと、波は「ゴシ」と今日も「地球を洗つて」いるようです。

(名護市、介護老人保健施設「あけみおの里」施設長、67歳)